



成田 あれ・これ



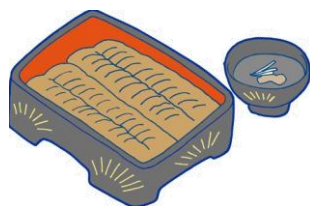
令和5年8月号 第338号

発行：(一社)成田市観光協会
成田市花崎町839
0476-24-3198

状況によりイベントの変更や中止が生じる場合があります。
最新情報をご確認の上お出かけください。ご理解の程どうぞよろしくお願いたします。
尚、イベントの情報は令和5年6月12日現在です。

成田うなぎ祭り 7/14(金)~8/28(月)

江戸時代から続く「成田のうなぎ」を多くの皆様にとって頂く為に、今年も「成田うなぎ祭り」を開催します。



今年で19回目を迎え、約110店の参加店が、アイデア溢れるうなぎ料理や成田の特産物などの多彩な品々を沢山ご用意してお客様をお待ちしております。

イベント期間中は、各参加店でのお食事やお買い物1,000円につき1個スタンプを押印します。2店舗以上を巡りスタンプを3個集めると、豪華賞品が当たる抽選会にご応募できます。

古い由来のある成田のうなぎ。江戸時代には「成田詣」が盛んになり成田は繁栄しました。門前町の旅館では、江戸でうなぎの人気の高まるにつれて夏場のうなぎ料理を売り物として、お客様をおもてなしました。この名残で、成田山周辺を中心に成田市内には、うなぎ料理を出すお店が今でも数多くあるのです。

距離800m、徒歩約15分の成田山表参道には古くからの旅館や料理店が連なり、数多くの飲食店がうなぎ料理をメニューに入れてあります。これだけの密度でうなぎ屋さんが集まっている例は全国でも珍しいと言えます。

この機会に是非、成田の食や文化に触れることができる、うなぎのぼりの街 成田にお越し下さい。

【お問合せ先】(一社)成田市観光協会 TEL 0476-22-2102



成田山みたま祭り 盆踊り大会 8/23(水) 24(木)

長い歴史のある成田山みたま祭り盆踊り大会は、市民全体の祭りとして、女人講をはじめ市内の多くの踊り手が参加します。浴衣を着た小さな子供達も踊りの輪に加わり、成田ゆかりの曲に合わせて踊ります。

見物の方も一緒に、夏の夜を楽しむことができます。

皆で踊るととても楽しいです。飛び入りでのご参加も大歓迎ですので是非お越し下さい。皆で楽しい夏の思い出づくりをしてみませんか？

【日付】8月23日(水)・24日(木)

※両日雨天の場合は25日(金)に順延。25日(金)雨天時は中止となります。

時間については、成田市観光協会までお問合せください。

【開催場所】成田山弘恵会田町駐車場(成田山新勝寺門前)

【お問合せ先】(一社)成田市観光協会 TEL 0476-22-2102



8月の主な行事予定

滑河観音 四万八千日 (しまん はっせんいち)

「四万八千日」は、観音様の深いご縁がいただける日です。この日にお参りすると、四万八千日お参りしたのと同じ御利益があると言われています。

新しい仏様と2年目の仏様の精霊棚にお供えする為のお札と鬼灯(ホオズキ)をお求めいただけます。

(お札は8月からお求めいただけます。)

【日 時】 8月9日(水)

【場 所】 滑河観音(龍正院) JR 滑河駅より徒歩15分

【お問合せ先】 滑河観音(龍正院) TEL 0476-96-0217



千葉県立房総のむら「むらの縁日・夕涼み」

「涼む」をテーマに、日中は夏にちなんだ製作体験などを行い、夕方からは縁日の賑わいや夕涼みの雰囲気を楽しめます。浴衣・甚平の方は入場無料です。16時30分以降の入場料は高校生以上100円となります。

【日 時】 8月5日(土)・6日(日) 9時~20時

【入 場 料】 一般300円、高・大学生150円、中学生以下と65歳以上は無料

【お問合せ先】 千葉県立房総のむら TEL 0476-95-3333

いざ！成田詣へ～街道旅日記～その⑩

大正から昭和にかけての時期は、一般に鉄道が発展した時期でしたが、成田も例外ではなく、様々な面で整備が進められました。

成田鉄道は、大正当時、日本で最大規模の私鉄の一つとなっていました。鉄道国有化の政策により、大正9年(1920年)に経営が鉄道省に移りました。成田駅の乗降客数は、大正5年(1916年)の88万人弱から大正12年(1923年)には約175万人と倍増をし、大正末年になっても、市川・船橋をおさえ、千葉駅につぐ県下2位の座を保持していました。

大正15年(1926年)12月、新たに京成電鉄軌道(現在の京成電鉄)によって、東京と成田を結ぶ3番目のルートが開通します。京成電気鉄道は、東京の「京」と成田の「成」として社名としています。大正元年(1912年)に押上-江戸川間を開通し、以後少しずつ成田へと路線が伸びて来ました。大正14年(1925年)には、いよいよ最終目的地の成田まで路線を延長する工事が始まりました。そして、現在の京成成田駅より約400メートル手前に、成田花咲町仮駅をつくり、大正15年(1926年)12月24日に開業をしました。現在の場所に開設されたのは、昭和5年(1930年)4月25日のことでした。

大正時代の成田山新勝寺本堂(現釈迦堂) 成田山霊光館所蔵



の参詣客が成田山を訪れたのです。(⇒次回に続きます。)

開業時、京成は、押上-花咲町間を1時間23分、20分ごとの発車で運行していました。国鉄は、両国-成田間を2時間、2時間間隔のSL列車で運行していました。運賃は京成が17銭安いものでした。

京成が開通してから最初の節分となる昭和2年(1927年)2月4日には、国鉄は20本もの臨時列車を出し対抗策を打ち出しましたが、京成は終夜運転を開始しました。

成田山新勝寺の堂庭には、両者の切符売場が設けられ、盛んに成田詣が誘致され多く

☆イベント等の関連情報については、FEEL 成田(<https://www.nrtk.jp>)をご覧ください。☆